

光 学 天 文 連 絡 会

GROUP OF OPTICAL AND INFRARED ASTRONOMERS (GOPIRA)

会 報

No. 40

1986-6-24

光学天文連絡会事務局（東北大学理学部天文学教室）

1. 第9回総会報告

目次

1986年5月13日 日本天文学会春季年会終了後、年会のB会場で、第9回総会が開かれました。

議長：田中 隆 出席者 51名

I. 第9回総会報告

- I-1 1985年度会務報告及び会計報告 1
- I-1-1 1985年度活動報告(運営委員会) 3
- I-1-2 同 補足(東京天文台の取り組み、準備状況) 5
- I-1-3 望遠鏡ワーキンググループ報告 9
- I-1-4 同 補足(観測機器ワークショップ) 9
- I-1-5 同 補足(東京天文台、望遠鏡WG報告) 10
- I-4 体制ワーキンググループ報告 10
- I-5 ユーザーズ・コミッティ報告 11
- I-6 国際協力ワーキンググループ報告 12
- I-7 1986年度委員の選出と承認 14
- I-8 1986年度事務局の承認 14
- I-9 1986年度活動方針 15

II. 第38回運営委員会記録 17

III. 会員移動 19

IV. 掲示板 20

- IV-1 シュミット・シンボ、技術シンボのお知らせ
 - IV-2 会費納入のお願い
- 1985年 8月29日-30日 京都・関西セミナーハウス 出席者 29名
- 1985年 9月 5日-6日 岐阜県神岡町流葉ロッジ 出席者 16名
- 1985年 9月 23日-24日 東大天文学教室 出席者 58名
- *大型光学赤外線望遠鏡計画推進シンポジウム-1986. I-
- 1986年 1月12日-13日 東京・上野国立博物館講堂 出席者 76名
- *赤外線分光観測ワークショップ
- 1986年 1月21日 京都・京大会場 出席者 37名

- 5) 会報・パンフレット
- NO. 36 1985年 6月25日発行 18頁
- NO. 37 1985年 9月25日発行 16頁
- NO. 38 1985年11月25日発行 10頁
- NO. 39 1986年 4月10日発行 10頁
- パンフレット 1986年 4月 発行 4頁(カラー)

- 6) 会員名簿
- 1986年 2月15日現在で発行 会員数220名

- 7) 運営委員選挙
- 1986年 3月1日公示、3月25日締切、3月28日開票(会報NO. 39参照)

1. 第9回総会報告

1986年5月13日 日本天文学会春季年会終了後、年会のB会場で、第9回総会が開かれました。

議長：田中 清。出席者 51名。

1-1. 1985年度会務報告および会計報告(平田)

1) 総会・懇談会

第8回総会	1985年 5月22日	仙台・戦災復興記念館	出席者 51名
懇談会	1985年 9月 3日	岐阜県神岡町流葉ロッジ	出席者約40名
懇談会	1985年10月 7日	名大理・C5講義室	出席者 29名

2) 運営委員会

第35回	1985年 5月22日	仙台・戦災復興記念館	出席者 9名
第36回	1985年10月 1日	東大天文学教室会議室	出席者 14名
第37回	1986年 1月11日	東京天文台輪講室	出席者 14名
第38回	1986年 4月14日	東大天文学教室会議室	出席者 11名

3) 専門委員会

体制WG	1985年 5月22日	仙台・戦災復興記念館	出席者 9名
"	1985年 6月 3日	東京天文台木曾観測所	出席者 6名
"	1985年12月 6日	東大天文学教室会議室	出席者 9名
ユーザーズC	1985年 9月 5日	岐阜県神岡町流葉ロッジ	出席者約20名
"	1985年12月 5日	宇宙研45号館	出席者 14名

4) シンポジウム・ワークショップ

* 赤外線観測技術ワークショップ
1985年 8月29日-30日 京都・関西セミナーハウス 出席者 29名

* 体制問題ワークショップ
1985年 9月 5日- 6日 岐阜県神岡町流葉ロッジ 出席者 16名

* 観測機器ワークショップ
1985年10月23日-24日 東大天文学教室 出席者 58名

* 大型光学赤外線望遠鏡計画推進シンポジウム-1986-1-
1986年 1月12日-13日 東京・上野国立博物館講堂 出席者 76名

* 赤外線分光観測ワークショップ
1986年 1月21日 京都・京大会館 出席者 37名

5) 会報・パンフレット

NO. 36	1985年 6月25日発行	18頁
NO. 37	1985年 9月25日発行	16頁
NO. 38	1985年11月25日発行	10頁
NO. 39	1986年 4月10日発行	10頁
パンフレット	1986年 4月 発行	4頁(カラー)

6) 会員名簿

1986年 2月15日現在で発行 会員数220名

7) 運営委員選挙

1986年 3月1日公示、3月25日締切、3月28日開票(会報NO. 39参照)

5月13日 総会で承認。

【収入】

前期繰り越し		67,478円
会費		323,000
内訳	昭和59年度 2000円 (一般 1人)	2,000
	昭和60年度 2000円 (一般 140人)	280,000
	昭和60年度 1000円 (学生 35人)	35,000
	昭和61年度 2000円 (一般 3人)	6,000
合計		390,478
【支出】		
印刷費		162,800
内訳	会報 No.36	25,800
	同 No.37	23,500
	同 No.38	18,150
	同 No.39	18,150
	名簿、投票用紙など	49,300
	光天連パンフ (買取)	27,900
送料 (切手)		111,700
封筒		7,565
連絡費 (体制WG:切手、電話)		27,000
宅配便 (3回)		4,500
カセットテープ		2,520
合計		316,085
繰り越し		74,393

【会費納入状況】

昭和60年度会費	前納	3人
	当年度納入	175人
	未納	41人

1. 全般的経過

第8回総会 (昭和60年5月22日) 以来、大型光学赤外線望遠鏡 (JNL T) の基本構想はほぼ定着し、本年度は技術的検討、共同利用研究体制の検討が具体的にすすみ始めた。ワーキンググループ、ワークショップ、シンポジウムなど大小規模の会議が頻りに開かれ、当面する問題点、将来への展望などが次第に浮き上がって来た。本年度は望遠鏡建設に関する技術的検討及び研究体制の検討を基礎にして東京天文台を窓口とする予算要求への準備も進展している。

以下、主な事項について本年度の経過をまとめる。

2. 望遠鏡・観測機器等の技術的検討

望遠鏡建設に関する技術的検討は東京天文台望遠鏡WGが中心となって進めている。ほぼ毎週開かれるWGの報告は光天連会員の希望者に配布されており、本年3月で109号に達している。そのほか本年度は技術関係のワークショップが3回開かれ (赤外線観測技術、観測機器、および赤外線分光観測の各W. S.), 昭和61年1月に開かれた光天連シンポジウムでも経過報告と討論があった。これらの検討結果をもとにして、昭和61年2月、東京天文台望遠鏡ワーキンググループは「大型光学赤外線望遠鏡 — 技術調査経過報告書 —」を印刷配布した。この報告書は関係各方面の critical review を得た上で、次のステップへ進む準備が進行中である。

3. 研究体制の検討

本年度は2つの大きな課題が取り上げられ、体制ワーキンググループ、ユーザーズコミッティを中心にして検討が進捗した。

(1) 全国共同利用体制

体制WGと運営委員合同の体制問題ワークショップが昭和60年9月に開かれ、(a) JNL Tの運用体制、(b) 全国共同利用研究体制、(c) 日本における天文学研究体制、などが集中的に検討された。ワークショップの結論として国立大学共同利用機関としての共同利用体制を望ましいとする方向で光天連の議論を進めることになった。この結論は昭和61年1月の光天連シンポにおいて全体的立場から討議され、光天連としての共通認識となった。具体的な内容については今後の光天連内及び多分野との話し合いを通じて深めていく必要がある。

(2) 岡山・木曽の有効利用について

岡山木曽のプログラム編成については本年度はユーザーズコミッティ (UC) が発足し、体制WG及びUCでの議論にもとづいて、昭和61年1月の運営委員会では、岡山プログラム編成の二期制を昭和62年から実施する方向で東京天文台に要望する具体案の検討をUCに委嘱することになった。

4. 建設計画推進の動き

(1) 東京天文台では昨年度に引き続き望遠鏡建設に関し昭和62年より2年計画の調査費を要求する方向で準備が進行している。なお、マウナケア地形の風洞実験及び広視野光学系については昭和60年度で調査が終了したので、今回は調査費から除いてある。また、研究体制についても東京天文台内外での検討が進捗した。

(2) MKOユーザーズコミッティ及びUHとの接触

1985年9月5日MKO Users Committee に小平氏が出席し、JNL Tの技術検討報告を行った。またUHのD. Hall氏と懇談した。1986年3月13日にはUH側とサイトおよびメモランダムについて情報交換を行った。

(3) 天文学研究連絡委員会

本年度は昭和60年10月11日(13期1回)、61年2月12日(13期2回)の2回、研連が開かれ、それぞれ、天文学将来計画について討議が行われた。特別な決議等はなく、自由討議と情報交換という形であったが、天文の広い分野にわたる研究体制のあり方について、次第に討議が深まっている。

5. 国際交流、海外観測

1986年3月に Tucson で開かれた SPIE 会議に磯部氏が出席し JNL T に関する Progress Report を行った。

海外学術調査をはじめと刷る研究交流計画にしたがって本年度も多くの海外観測及び国際交流が進展した。

6. 資料集及びPR用冊子

1986年2月、東京天文台望遠鏡ワーキンググループによって「大型光学赤外望遠鏡技術調査経過報告書」(232頁)がまとめられ、関係方面に印刷配布された。光天連からは同4月、PR用パンフレット「大型光学赤外線望遠鏡計画」(4頁色刷り)が印刷配布された。なお、PR用パンフレットは東京天文台からも1986年1月に印刷配布された。

1985年度活動報告(補足)(小平)

東京天文台での調査経過等

1986. 05. 13

(文責 小平)

I. 技術調査

光天連の議論に基づいて第一次概念設計及びその実現可能性の検討を行った。1985年11月分までを「調査経過報告書」(1986. 02)としてまとめ、約30人の台外の方々に Critical Review をしていただいた。全体としては高く評価されたが、

A) システム的観点の欠如(全体のバランス採れ)

B) 最適化を図れ(経済性への配慮不足)

[解像力0."1、口径7.5mの妥当性、大型ドームの必要性]→VLT比較

C) 工学実験の必要性、等が指摘された。

→民間共同研究、試験研究:三菱電機、ミラーアクティブサポート

【A】

II. 建設候補地

気象庁気象研究所との共同研究でMK山頂の1/1000及び1/5000模型による風洞実験を行い、実験結果に基づいて「第一次報告書」(1986. 04)をまとめた。

【B】

NNTTに確保されている地点に次ぐよい地点として西北尾根のKECK望遠鏡の西側の地点が候補地として考えられる。実質調査や協議に先立ち交換すべきハワイ及び日本側の意図を示す「覚え書き」(MOU)の草案を準備中。

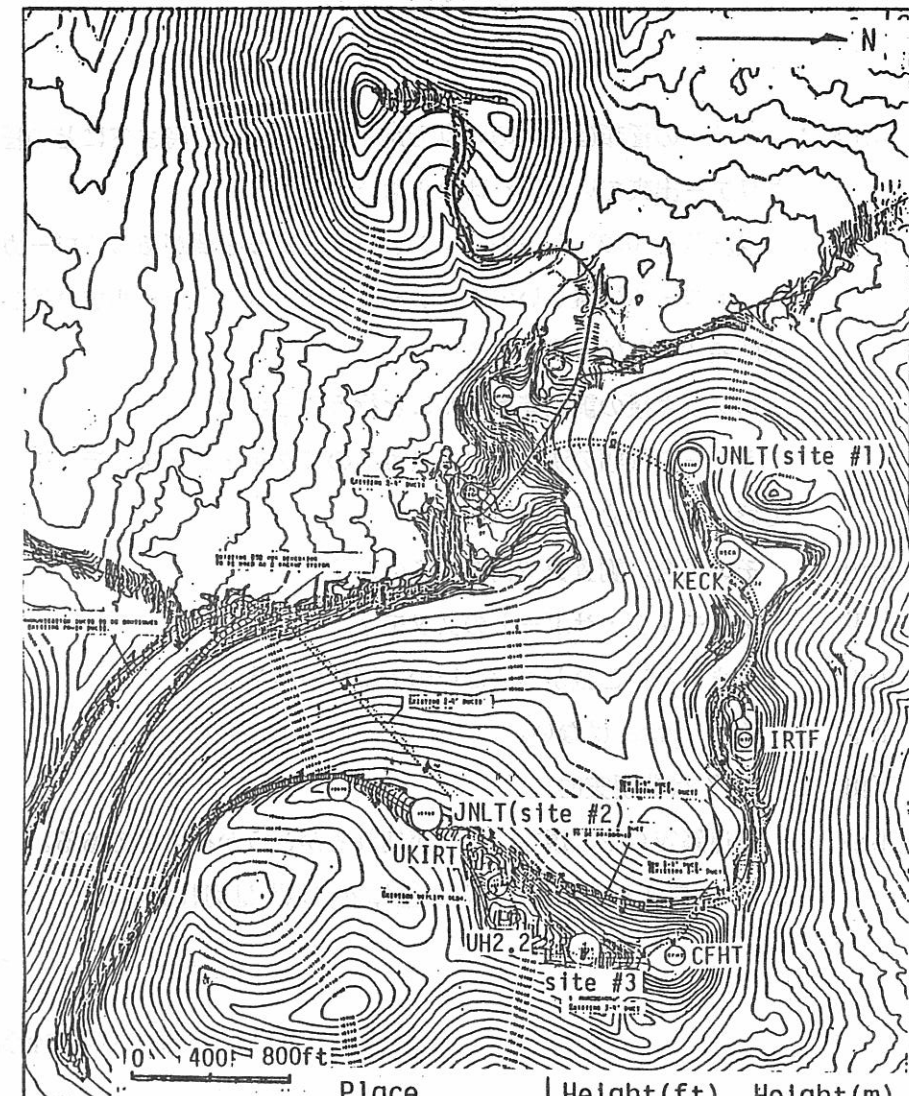
III. 概算要求

昨年に引き続き昭和62年度調査費概算要求を提出準備中。サイトテスト及び主鏡をはじめとする構造体の工学実験・解析経費が主である。運用体制、共同利用、観測器計画についての全国の関連研究者との検討経費も含まれている。調査計画は2年に亘る。

【A】 軽量主鏡の比較

	ハニカム方式	薄メニスカス方式
構	ボロシリケート系 $\alpha = 3 \times 10^{-6}$	ULE $\alpha = 3 \times 10^{-8}$
造	重量 約16トン 厚さ 0.9m (リブ厚~2cm セル径~0.2m)	重量 約20トン 厚さ 0.2m
経	(アリゾナ大学) 1986年中に3.5mを試作予定。 8m級の構造検討中。	(コーニング、CG社等) 鏡材製造は技術的には問題ないとさ れている。4m級まで経験あり。8 m級の支持機構検討中。
過	(US、NNTT)	(ESO、VLTはショット社ゼロ デュア：まだ開発中)
利	一旦技術が確立すればコスト低い。 铸造期間短い。内部空気流により熱 時間尺度を比較的短くできる。アリ ゾナ大で铸造・研磨する。適当な支 持で済ますことも可。	膨張率小さく熱変形を無視できる。 内部構造が一樣でアクティブサポート に適している。建設後も追い込み改 善の可能性大。
難	十分な熱追従には大量の空気流が要 る。内部構造が複雑でアクティブサポ ートに向かない。熱変形が大きい。	熱時間尺度が長い。製造に時間がか かる。コスト比較的に高い。铸造地 から研磨地へ輸送の要。

【B】 山頂地図



Place	Height(ft)	Height(m)
summit	13796	4205
JNLT(site #1)	13580	4139
JNLT(site #2)	13720	4182
site #3	13730	4185
UH2.2, UKIRT	13760	4194
CFHT	13720	4182
IRTF	13700	4176
KECK	13610	4148

質疑応答

市川： ミラーの種類はいつの時点で選ぶのか？ その時までにはどの程度問題がクリア出来ていなければならないか？

小平： 温度差を 0.2°C 以内にコントロールする必要がある。ローカルな温度コントロールは難しいので、ドーム全体でコントロールすれば良い。空間分解能 $0.4''$ は達成できる。

再メッキ後の調整等もセルごと行うことになる。

ミラーの種類は決定はメニスカスのアクティブ・スタディに一年程かけて感じがつかめてからになる。

市川： その場合、調査費で何をするのか？

小平： アクティブ・サポートのスタディ。

市川： 決まらないと金が見つからないのではないのか？

小平： その phase はない。

下田： $0.1''$ は非現実的。

小平： 望遠鏡WGで、現在 $0.3''$ が切れるかどうか検討中である。

$0.1''$ の精度を目指さないと、全体で $0.2''$ は切れない。

NNTTの現状について（寿岳）

小暮： ESOの 8m はどうなっているのか？

小平： 良く分からない。

I-3. 望遠鏡ワーキンググループ報告（舞原）

1986年度の活動としては、東京天文台WGによる技術的検討と平行して幾つかのワークショップ（WS）を行うことが提案され、実際には、望遠鏡WGの関与するWSとしては、1）赤外線関係のWS（“赤外線観測技術WS”：1985・8・29-30、と“赤外線分光観測に関するWS”：1986・1・22）、及び2）“観測機器WS”：1985・10・23 が行われた。それらの詳細は各々の集録としてまとめられている。

JNLTのScientificな目標を達成するために望遠鏡自身の赤外線性能をいかにOptimizeするか、どんな観測機器（赤外・光学）を重点的に開発するか、等について一応のサーベイとDiscussionが行われたが、1、2回のワークショップで解決する問題ではないので、個々の具体的な点について更に内容を煮詰めていかなければならないだろう。

一般的な活動としては、前年度の継続として、東京天文台WGの作業状況レポートが望遠鏡WGメンバー及び希望者に配布された。又東京天文台が中心となって精力的に進めてきた望遠鏡技術検討結果の報告書がまとめられ広範囲に配布されている。（文責：舞原）

補足（観測機器ワークショップ）（辻）

集録参照。

補足（東京天文台望遠鏡WG報告）（安藤）

特に風洞実験について。 後で報告をまとめる。

質疑応答

【天文台のWG—安藤】

市川： 風向きはしょっちゅう変わるのか？

安藤： モニターしているわけではないが、平均的なもの。

小平： 詳しい資料がある。東と西が半々。

（文責：前原英夫）

I-4 体制WGの活動報告

昭和60年度の当ワーキング・グループでの検討課題は、

- (1) 共同利用の体制について
- (2) JNL Tの運用体制について
- (3) 日本に於ける光学赤外天文学の研究体制

- a) 中央の天文台への集中の度合
- b) 他研究機関とのCooperative, Competitiveな機能と役割
- c) 国内望遠鏡の意義と役割

であった。これらについて広い立場から種々検討した結果、(1)については、「JNL Tは、国立大学共同利用機関としての共同利用研究所に設置することが望ましい」との結論となった。(2)については、(イ)ハワイ観測所の性格、……(ト)大学院教育の問題、等の7項目について光天連としての原則的な考え方について検討してきた(光天連シンボ1986年1月集録P.49-51参照)。しかし、(3)については、十分な検討がなされないまま、次年度への検討課題として残された。

(文責 若松)

質疑応答

【体制WG-若松】

松村 : 中型・小型の望遠鏡計画はJNL Tの一環として考えるのか?

若松 : 独立したものとする。

市川 : 東京天文台ではJNL Tを含めて改組の議論をしているのか? JNL Tに望ましい体制になるのか?

小平 : 心配はない。JNL Tの実現を目指している。

市川 : ハワイの観測所の性格づけは?

小平 : 現在は一段前の大枠の調査の段階である。法律とか、現状の枠内での調査はしている。

I-5. 岡山・木曾 ユーザーズ・コミッティ報告(前原)

UCでは、岡山188-cm望遠鏡の観測プログラムの編成について、以下に示す日程で具体案作成のため討論を重ねてきました。これまでの経緯は、光天連会報の抄録、岡山ユーザーズ・ミーティングの集録、光天連シンポジウムの集録などに報告されていますので、詳細についてはそれらを参照して下さい。

9月 5日	UC 会合	(シュミット・シンポジウム)
10月 日	UC 会合	(秋季年会)
10月22、23日	討論	(岡山ユーザーズ・ミーティング)
12月 5日	UC 会合	(UVSAT)
1月12、13日	討論	(光天連シンポジウム)
2月 6日	報告	(プログラム相談会)
5月13日	報告	(光天連総会)

UCでは特に「年2期制」の導入について、以下に示す試案をもとに、feasibilityの評価を行い、実現の方向へステップを進めています。議論が完全に収束した訳ではありませんが、総会・運営委員会の席上でこのようなUCの活動を報告し、了承されています。(東京天文台、岡山の関係者には2月のプログラム相談会の席上で光天連の雰囲気をお伝えしてあります。)今後さらに議論を深め、東京天文台との接触を計ることになるかと思えます。

以上

岡山188-cm望遠鏡の観測プログラム編成について(試案)

1. 観測プログラム(以下単にプログラムという)の申し込みと編成は年2回を単位として行う。第1期は1月-6月、第2期は7月-12月とする。なお、現行プログラムからの移行時はこれにとらわれない。
2. プログラム編成の基本方針は、光天連の推薦するメンバーを加えたプログラム相談会で検討し、編成の作業はプログラム編成委員会で行う。
3. プログラム編成にあたっては、
 - (1) 観測のfeasibility
 - (2) 科研費などによる機器開発の計画
 - (3) 前回までの観測達成状況などを十分に考慮する。

(文責: 前原英夫)

I-6. 国際協力ワーキング・グループ報告(山崎)

1986.5.13

A. 1985年度(1985.4-1986.3)に行われた国際協力

1. アメリカ(ハワイ): 海外学術調査「ハワイ・マウナケア天文台における観測に基づく星の生成と終末に関する研究」(代表者: 寿岳 潤) 調査総括。1名派遣。
2. 日英協力: 海外学術調査「ミリ波・赤外線国際協同観測によるコンパクト天体の研究」(代表者: 海部宣男) 2年目。6班13名がUKIRTにて観測。

3. 日仏共同研究: 学術振興会・フランス国立科学研究機関(CNRS)「クランビー・イレギュラー銀河の研究」(代表者: 高瀬文志郎) 2年目。4名派遣。1名来日。国内研究者のワークショップ(1986.2.20: 東京天文台)

4. 日中共同研究: 学術振興会・中国科学院「恒星・銀河の活動性に関する共同研究」(代表者: 小暮智一) 2年目。3名派遣。ワークショップ(1986.3.17-19: 京大宇宙物理、3.22: 岡山観測所)、出席者75名(日本56名、中国14名など)。

5. エジプト(ヘルワン): 国際協力事業団。(代表者: 北村正利) 3年目。1名来日、岡山観測所に滞在。

B. 1986年度(1986.4-1987.3)に行われる国際協力

1. 日英協力: 海外学術調査「ミリ波・赤外線国際協同観測によるコンパクト天体の研究」(代表者: 海部宣男) 3年目。
2. アメリカ(ハワイ): 海外学術調査「マウナケア天文台における銀河と銀河系の構造の観測的研究」(代表者: 石田恵一) 本調査。11班20名。
3. チリ(セロトロロ、ロシア): 海外学術調査「チリにある天文台における観測に基づく銀河の活動性と衝突の研究」(代表者: 西田 稔) 本調査。4班6名の観測計画。

4. 日仏セミナー: 学術振興会。(代表者: 小平桂一) 11月に仙台でセミナー、フランス側より7、8名来日予定。

5. エジプト(ヘルワン): 国際協力事業団。2名派遣。

6. 日本・インドネシア: 学術振興会・DGHE。(代表者: 石田恵一) 3年間。研究者派遣。

C. 1987年度以降の国際協力(申請予定)

1. 日米科学: 学術振興会。(代表者: 古在由秀)
2. 日中共同研究: 学術振興会・中国科学院。(代表者: 石田恵一) 銀河系、銀河。

◎他に、海外学術調査などが計画されている。

D. 海外渡航: 1985年(1985.1-1985.12)には、延45名が海外に出かけた。

観測 26名: マウナケア 16名、セロトロロ 1名、ロシア 1名、雲南 3名、興隆 1名、ストロムロ 3名、ピク・デュミディ 2名。
研究 8名: フランス、西ドイツ、アメリカ、オランダ、カナダ。
会議等 11名: アメリカ、ソ連、東南アジア、エジプト、韓国など。

質疑応答

【UC-前原】

? : UCに対して光天連はどの様に対応しているのか?

前原 : 光天連はユーザーの集団である。岡山・木曾に対する希望等をUCで話す。

? : 全国の天文学者が東京天文台に対しアドバイスするということか?

前原 : 光天連は任意団体。現状はきびしいので考える必要がある。

小暮 : JNLも大事だが、それまでの観測天文学をどうするかにも責任がある。

【国際協力WG-山崎】

平田 : 海外学術調査のありかた等をWGで議論してもらえないか。

1-7. 1986年委員の選出と承認

- ① 運営委員選挙結果は会報 NO.39 1ページ記載の通り承認。
- ② 運営委員長は、小暮智一氏。
- ③ 各WGのメンバーは、以下の通り承認されました。

昭和61年度 光天連委員 (○ : 世話人)

*運営委員
安藤、家、磯部(S)、岡村、兼古、小暮(委員長)、小平、佐藤(S)、
田中(W)、田村、西村(S)、平田、舞原、山下(Y)、若松

*望遠鏡WG
田中(W)(○)、舞原(○)、矢島、河野、中井、岡村、平田、奥田、
野口(K)、田村、兼古、長谷川(哲)

*体制WG
安藤(○)、石田(K)、太田、大谷、奥田、小暮、小平、関、西川(淳)、
若松(○)

*国際協力WG
家、磯部(S)、石田(K)、大谷、尾中、小平、佐藤(S)、寿岳(○)、
山崎(○)

*ユーザーズ・コミッティ
石田(K)、斎藤(M)、清水(M)、定金(○)、谷口、田村、西村(S)、
平井、前原(○)、山下(Y)、若松

1-8. 1986年事務局の承認

東北大学理学部天文学教室 及び 教養部地学教室* (田村、氏家、関*、谷口、松村、梅本
花岡)

1-9. 昭和61年度活動方針

光学天文連絡会

1) 活動の目標

光天連を中心とする関連研究者によって提案された大型光学赤外線望遠鏡計画案が天文学研究連絡委員会によって承認推薦をうけ、東京天文台を中心にそのための調査検討が進行している。このような状況をふまえ、本年度は次のような活動に重点をおく。

- (1) 全国共同利用体制の具体的検討
- (2) 大型望遠鏡の最適化及び関連機器の検討ならびに選定
- (3) 建設地点の検討
- (4) 大型望遠鏡の完成までの期間における観測、研究体制及び補助望遠鏡の検討

2) 活動計画

1) 総会、運営委員会の開催及び会報発行

2) シンポジウム、研究会などの開催

(1) 光学天文連絡会が主体となっていくもの

A) 光天連シンポジウム

大型光学赤外線望遠鏡の技術的課題及び運用体制の検討

B) 各種ワークショップ

望遠鏡最適化、観測装置、研究体制の検討

(2) 関連グループとの協力でいくもの

A) 技術シンポジウム

B) シュミットシンポジウム

C) 星の研究会

3) 各WGの活動

(1) 体制WG

・ 全国共同利用体制の具体的検討

・ 大型望遠鏡と国内観測体制との関係

(2) 望遠鏡WG

・ 技術検討の情報の流通

・ 望遠鏡の最適化についての意見の集約

(3) 国際協力WG

・ ハワイとの協力のあり方についての検討

・ 日米科学協力事業の推進

・ 海外観測の推進

(4) ユーザーズコミッティ

・ 岡山プログラムの改善策検討

・ 岡山ユーザーズミーティング開催

4) PR活動

大型光学赤外線望遠鏡ばかりではなく、光学・赤外線観測に関する幅広い面での推進をはかる。そのため、全体的な計画を各方面に認識してもらい、積極的な支持が得られるようなPR活動を行う。各種資料集を整備し、Q & AなどのPR文書を発行する。

【活動方針】

- 寿岳 : 2期制については、最終的に運営委員会が決めるのか？
- 小暮 : 光天連としては、そうである。最終的には天文台。
- ？ : 体制WGで、大学院を持つ大学が、教育についてどのような意見を持っているかを調べたらどうか？
- 小暮 : 一番大きな問題は人事交流に関してである。各大学の意見を聞きたい。
- 若松 : 光天連で議論すべき問題もあるが、大きな立場の問題は研連で活発に議論してほしい。
- 小平 : 改組の調査費がつくと準備会（全国から入る）が出来て話が進む。
- 市川 : 院生の教育と海外の観測との関連について。院生をメンバーに加える例は光学では非常に少ない。他分野では海外で観測させて学位を取らせるという事をしている。光学の先生も是非検討してほしい。

II. 第38回 運営委員会記録

日時 : 1986年4月14日 13:30-19:00

場所 : 東京大学理学部天文学教室会議室

出席者: 小暮、小平、安藤、田村、平田、家、清水、舞原、西村、山下

オブザーバー(奥田)

(報告)

1. 1986年度運営委員選挙結果(事務局)

会報NO. 39(1986 4/10 発行)掲載のとうり運営委員会として了承。

2. 1985年度会計中間報告(事務局)

会費の未納分が約70名(4月初)あるが、これを集金できたとすると若干の黒字が繰り越せる見込みである。

3. 各ワーキンググループ報告

1) 望遠鏡WG(舞原) 1985年度の活動目標として、技術検討の情報流通、意見集約、資料の発行が掲げられたが、実際には、幾つかのワークショップ、東京天文台技術検討報告の形で、実現されてきた。しかし、WG自体としての独自の会を持つことはできなかった。

2) 体制WG(安藤) WGの会合、ワークショップ、及びシンポジウム等の機会に、基本的な共同利用のあり方及びJNL Tを含む新しい機構についての具体像と問題点を検討してきた。詳しくは会報各号及び集録を参照されたい。

3) ユーザーズコミティ(田村) 岡山・木曾の既存の望遠鏡で行なわれている実質的な共同利用を現在の枠内で望ましい方式に改めていくべく検討を進めている。具体的なステップとして、二期制を62年度からスタートさせる方向で考えている。

4) 東京天文台内作業グループ(西村・他) a. 65cmの薄メニスカス・モデル鏡による鏡面制御試験をスタートした。 b. 薄メニスカスとハニカムの両方式の選択はもう少し時間がかかる。 c. 風洞実験によりMKO山頂の風による乱流発生分布がかなりわかってきた(現在JNL T候補地とされているKECK望遠鏡の横(サイト1)は総合的に見て比較的性质が良い地点である)。

4. ハワイ大学との交渉について(小平)

MOU(Memorandum of Understanding)の草稿について紹介があり若干の意見交換があった。文章については、次回運営委までに検討してくることになった。

5. 東京天文台技術調査経過報告書に対する意見集約について(小平)

全般的には好意的な意見が寄せられているが、JNL Tの基本的パラメーター(7.5m、0.1秒等)についての必然性の説明が示されていない、最適化(Optimization, Economization)が行なわれていない等の批判もあったことも紹介された。

(議題)

1. 共同利用体制について

現東京天文台の主要な部分を包含した新しい機構としての国立天文台への改組が検討されつつあり、早ければ62年度調査費概算要求として提出される可能性があることが報告されたあと、光天連として共同利用体制についての検討の進め方について議論した。本年度は、体制WGが精力的に活動して基本的な問題の洗い出しと、一般的な共同利用体制の在り方について基礎的な議論がかなり進んできたので、今後体制WGを中心として、より具体的な案の検討を行なう必要がある。かなりドラスチックな機構の変化を伴うので、従来の大学(特に東大)の天文教育・後継者育成の体制の問題や、現在進められつつある研究そのものが危機的な状態にならないよう配慮すること、又、一方、巨大な機関に集中しすぎて天文学のモノポリー状態が出来上がってしまうことも、心配しておかなければならない等の意見があった。

2. 光天連資料作成について
 運営委員長より、7.5m JNL T計画を出来るだけ広く宣伝し、会員及び関連分野の人達からも、より深い理解を得る事が出来る様に、基本資料の整理と、重要資料を箇条書きにした「Q and A」的なパンフレットを作ってはどうかという提案があった。基本資料としては、天文台作業グループがこれまでそろえてきたものがある(計画概要、国内望遠鏡による実績、JNL T関連研究者リスト等)。光天連としても努力する必要がある、運営委員長がその原案を考えて、その周辺でまとめていくことになった。

3. 次期体制について
 1) 運営委員長: 小暮氏に留任してもらうことを運営委として希望することになった。
 2) 事務局: 東北大・理に引き受けてもらうことになった(事務局長: 田村)。
 3) 各WG: ほぼ60年度メンバーに引き受けてもらうことになったが、望遠鏡WGには、これまでよりも広い範囲からの新メンバーのもとで、「JNL Tの最適化」という問題を、天文台作業グループとは別の角度から検討することになった(新メンバーは世話人(舞原・田中)に原案をだしてもらい、委員長長の了解のもとに提案する)。又、体制WGには院生から西川・太田の両名にはいってもらうことになった。

4. 総会議事について
 事務局長(平田)の提案した総会(5月13日夕刻より)の議事原案を討議、了承した。議事内容として、特に60年度の活動報告及び61年度の活動方針の骨子については、委員長案について討議し、運営委員会としてこれらを了承した。

III. 会員の異動

新入会: 坂井義人 斐太彦天文處(飛驒プラネタリウム)
 〒506-02 岐阜県大野郡清美村夏蔵

退会: 清水 彊

転居 その他: 吉岡一男 〒371 前橋市若宮町1丁目12-26
 放送大学群馬学習センター
 Tel. [REDACTED]

岡崎敦男 〒062 札幌市豊平区旭町4-1-40
 北海学園大学教養部
 Tel. 011-841-1161 内線 234

田中 裕 〒650 神戸市中央区諏訪山3-1
 神戸山手女子短期大学家政学部

田中培生 東京天文台

石井久司 〒251 藤沢市 [REDACTED]

比田井昌英 内線の変更 → 4816

会員名簿の訂正: (誤) 松本亮治 → (正) 松元亮治

(誤) 富田弘一郎 → (正) 富田弘一郎

(誤) 富田良雄 → (正) 富田良雄

IV. 掲示板

- ① 今年度の技術シンボ、シュミット・シンボが下記のように計画されています。

	技術シンボ	シュミット・シンボ
日時	9月3、4日	9月5、6日
場所(木曽福島)	長野県林業大学校	木曽郡民会館

- ② 岡山ユーズ・ミーティングは、9月頃 東京近辺で開催される模様です。

- ③ 今年度の会費を納入して下さいをお願いします。

振替口座 仙台 3-18183 光学天文連絡会